



山東小学校 学校便り

NO. 7

『送（かすがい）Ⅱ』

令和7年12月19日
文責 中村博朗

（株）リバテープ製薬から

本の寄贈がありました

今年もリバテープ製薬株式会社より本の寄贈がありました。今年の寄贈式では、リバテープ製薬に勤務されている山東小学校の卒業生が来てくださり、仕事のやりがいや、リバテープ製薬に就職した理由など、キャリア教育も行ってくださいました。また、創業者の星子亀次郎さんにちなんだクイズ等もしていただき、郷土の誇らしい歴史についても学ぶことができました。

この日はちょうど横山のしいたけもたくさんだったので、終了後にみんなで一緒にしいたけの収穫もでき、リバテープ製薬のみなさんへのお土産にもできました。

また、橋爪社長のおすすめ本もいただきました。今年は小学生向けの哲学の本「自分って、なに?」「きもちって、なに?」「しあわせって、なに?」です。たくさん子どもたちに読んでもらって、考える力を豊かにしていってほしいと思います。

リバテープ製薬株式会社からの本の寄贈に心より感謝申し上げます。

学校評価アンケートのご協力

ありがとうございました

11月27日（木）～12月9日（火）に行いました学校評価アンケートについて、多数の回答をいただきありがとうございました。結果については集計して教職員で考察し、今後の教育活動に役立てていきます。2月末には令和7年度学校評価としてホームページでも公開予定です。

さて、この学校評価アンケートの内容は、昨年度（令和6年度）から大きく変わっています。熊本市教育振興基本計画が昨年度改訂され、令和6年度～令和9年度熊本市教育大綱に沿った内容になりました。熊本市教育大綱では、正解のない予測不能な未来で生き抜く力として、「主体的に学ぶ」ことが重視されていますが、今回の改定では子ども自らがそのことを意識して学習に取り組むように、アンケート項目に盛り込まれました。その一つが「2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進」で、アンケートでは次のような質問になっています。

保護者向け：「学校はこどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか」

子ども向け：「あなたは、自分で考え、自分から取り組む学習をしていると思いますか」



昨年、この質問内容をはじめて読んだ時には、正直これは難しいなと思いました。子どもの主体性を引き出す授業にはもちろん学校全体で取り組んでいましたが、「自分で考え、自分から取り組む学習（授業）」となると、より子ども主体の授業に取り組む必要があります。案の定、昨年度の学校評価アンケートでは子どもたちの肯定的な評価（そう思う どちらかといえばそう思う）は69パーセントでした。

そこで、今年度、全職員で校内研修等で協議を重ねていったのが「子どもにゆだねる授業」です。「ゆだねる」とは、もちろん子どもに丸投げするというものではありません。子どもが「自分で考え、自分から取り組む」ことができるようになる教師の役割とは何か、子どもたちが自由に発言して対話を深められる授業の姿とは何か、それを明確にしない限り「子どもにゆだねる授業」は成立しません。ちょうど昨年度2月に熊本市教育センターの授業づくり学校訪問（4年に1回）があり、「子どもにゆだねる」という助言をいただいたのがきっかけでした。

そして、研究部長が中心となってまとめたのが【表1「子どもにゆだねる授業」が目指す児童の姿と教師の役割】です。

表1 「子どもにゆだねる授業」が目指す児童の姿と教師の役割

【評価、ふりかえり】 ^①	【課題作り】 ^②	【達成への方法を選ぶ】 ^③	【解決、深め合い】 ^④
児童の目指す姿 ●学習の段階を把握し、記述したり、選んだりしている。 ^⑤ ^⑥	児童の目指す姿 ●「調べてみたい」「やってみたい」と発言している。 ^⑤ ●前時のふりかえりから、自分が学びたいことを見つけている。 ^⑤ ^⑥	児童の目指す姿 ●課題解決の方法のアイデアを出したり、教師や友達が提示した選択肢から選んだりしている。 ^⑤ ^⑥	児童の目指す姿 ●悩みながら取り組んでいる。 ^⑤ ●それぞれの学びを出し合っている。 ^⑤ ●出し合った学びをもとにまとめている。 ^⑤ ^⑥
教師の役割 ★児童が学びを振り返られる力を付ける3ステップ ^⑦ ① 振り返りの視点を与え、子どもにとってわかりやすい方法を選ばせる。(山東小振り返りの視点の活用、拳手や絵、10点満点で表すなど) ^⑧ ② 習慣化 ^⑧ ③ 自由記述で振り返りをさせる。 ^⑧ ^⑨ ★学びの足跡を児童が把握できる形にしておく。 ^⑨	教師の役割 ★児童の実態（学習状況・好きなこと、得意なことなど）を把握し、児童の興味関心が高まるような場面・教材・課題を提示する。 ^⑧ ^⑨ ★課題作りをするために必要な視点を持たせるための第0次を設ける。(プレ実験、視点のアドバイスなど) ^⑧ ^⑨	教師の役割 ★選べる方法を提示する。(「過去の部屋」「過去の学び」) ^⑧ ★児童が出し合う活動を設定する。そして選択。 ^⑧ ★あえて条件、制限のみを与えて任せる。 ^⑧ ★達成に向かうヒントのみ伝える。(教師は児童の学びを想像した上で) ^⑧ ★選択できる幅を高学年になるにつれて増やしていくために、低学年から段階を踏んで学びを蓄積しておく。 ^⑧ ^⑨	教師の役割 ★話し合い活動で、出てきた意見に自分はどう思うのか(同じ、近い、違う、疑問など)を表現するように、全体に聞き返すなど、反応ができるような学級づくりを日頃からする。 ^⑧ ★活動の内容に合った学習形態で学べるよう助言する。 ^⑧ ★目指したい学習に向かっているかチェックをしながら、アドバイスや指示を加えるコーチング。 ^⑧ ★ファシリテートする。(児童が主体的に取り組めるように適切な問いかけや話し合いの視覚化を行う) ^⑧ ^⑨

まだ実践途中でさらなる取り組みが必要な段階ではありますが、先ほどの質問項目を昨年度のものと比較すると右図のように、肯定的評価が69%から82%になりました。この他にも「あなたは、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりしていますか」が59%から79%、「あなたは、授業の中で、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすことができますか」が79%から91%へと上昇しました。今後も、これからの未来を生き抜く力を育む学習に、子どもたちと一緒に全職員で取り組んでいきます。どうかの皆様のご理解とご協力の程よろしくお願いたします。

